

天声人語

西欧先進国で最後まで死刑が残った国が、フランスだった。弁護士のバダンテール氏は「ムッシュ・死刑廃止」と呼ばれるほど運動を続けた。1981年に法相になつて廃止を成し遂げたが、世論の十分な支持があつたわけではなかつた▼決め手は、廃止を公約したミッテラン大統領の「政治的勇気」に尽きると本紙グローブで語つたことがある。「民主主義国家であることと死刑制度は共存できない。人命尊重は人権思想の基礎であり、民主主義は人権に立脚しているからです」▼13人。その響きにたじろいでしまう。オウム真理教事件に関わる死刑執行が、2度にわたつてなされた。世界の流れから離れ、制度が動き続いていることを改めて思う▼欧州連合などは昨日の声明で執行の停止を日本に呼びかけた。「死刑は残酷で冷酷であり、犯罪抑止効果がない」からという。死刑を廃止または事実上停止している国は142カ国。制度を維持するのは56の国・地域にまで減つている▼出羽守という言葉がある。「欧州では」と外国の例を持ち出す態度をからかうものだ。ただ死刑制度は、廃止した国にもつと目を向けるべきではないか。復讐から脱却し更生に重きを置いていった歴史がある。國人の命を奪う権利があるのか、との疑問が原点にある▼13人のうちの1人が残したこと言葉である。「毎週金曜の朝に『執行』と言わなければ、あす明後日は週末だからないんだ、とひと息つく生活です」。そうやって、死を待っていた。

2018・7・27